



目議第531号
令和元年6月6日

様

目黒区議会議長
宮澤 宏 行

質問通告について

令和元年6月17日開会の第2回目黒区議会定例会における質問通告が下記のとおりありましたので通知します。

記

一 般 質 問

質問者氏名 河 野 陽 子

目安時間 60分

1 保育園児の通園・散歩ルートの特検ならびに対策について

(1) 大津市で散歩中だった保育園児2人が死亡した事故を受け、安倍総理が関係閣僚会議にて子どもの移動経路の安全対策を各省庁に指示した。

これを受け警視庁は幼稚園や保育園の通園・散歩ルートの安全確認に乗り出すこととなった。管内の各園と連携してルートを特検し、危険箇所があれば対策を講じるよう各警察署に通知したとされるが、目黒区では具体的にどのような動きとなるのか伺う。

(2) 特検によって対策を講じる必要がある箇所が判明した場合、国や都等の費用負担も含め、区としてどのような改善を行っていくのか伺う。

2 高齢ドライバーの免許返納促進に対する区での取り組みについて

4月に発生した東京・池袋の母子死亡事故を初め、高齢ドライバーによる重大事故が後を絶たない。高齢ドライバーによる悲惨な結果の交通事故

をこれ以上繰り返さないため、免許返納等の対策を推進するために、区も関係機関と協力し、さらなる啓発が必要である。一方で、運転をやめても日常生活に支障がないよう、区として身近な移動を支援する施策を講じる必要があると考える。既に区ではコミュニティ交通の検討を始めているが、その検討にあたって、高齢ドライバーの免許返納促進という視点も含め、実現に向け進めて行くべきと考えるがいかがか。

3 「ひきこもり」に対する対応について

本年3月、内閣府の初の調査で、自宅に半年以上閉じこもっている「ひきこもり」の40～64歳が全国で推計61万3千人いるとの調査結果を発表した。15～39歳の「ひきこもり」の推計で54万1千人を上回る結果で、「ひきこもり」が若い世代だけではなく幅広い年齢層の問題だということを裏付けると同時に、今後「8050問題」が深刻化することが懸念されている。「ひきこもり」に対しては、個人や世帯が抱える、複合的な課題に対応していくために、相談・医療・福祉・就労等様々な分野の協力と連携した包括的支援・多職種支援が必要である。「ひきこもり」支援が適切に行える人材の育成を含め、今後「ひきこもり」支援についてどのように取り組んでいくのかを伺う。

4 高齢化社会に向けた区の考え方について

2025年団塊の世代が75歳を越え、2040年に向けては人口減少、労働人口減少が言われている。国はSociety 5.0社会の実現や女性活躍社会、働き方改革、あるいは健康寿命延伸策、介護人材確保等を含めた外国人労働力の受け入れ等様々な施策を進めてきているところである。こういった状況の中で、高齢者というと福祉・年金・介護などの社会的コストを捉え議論されていることが多いが、これからあるべき高齢化社会は、高齢者を福祉、年金、介護の対象としてみるのではなく、社会システムの中にもう一度位置づけ直し、社会に参画し貢献する主体として活躍できる社会づくりを基礎とするジェロントロジー（老人学・老齡学）の考え方が重要であろう。視点を新たに、高齢者を高齢者として扱わない、高齢者が戦力の「目黒」となるよう、高齢者を社会資源として捉え、高齢者のための社会参画プラットフォームを整えて行くべきと考える。

- (1) 高齢者のための社会参画プラットフォームとして重要なものの一つに、社会参加も含め働く意欲のある高齢者の能力や経験を活かし、生涯現役

で活躍し続けられる社会環境を整えることが必要である。高齢者の就労・社会参加に対する多様なニーズに対応するために、就業の手助けや、シルバー人材センターの職域の拡充、創業支援、あるいはNPO等を含めた地域での活躍の場の掘り起こし等、活躍の場を所管を越え横断的に増やしていくことが重要と考えるが区の考えを伺う。

- (2) 高齢者の中には「老人」「お年寄り」といった言葉に抵抗の多い人が増えている。生涯現役、高齢者を高齢者と扱わない・感じさせない目黒であるために、高齢者の拠点や施策のネーミングに「老人」等を使わず「アクティブシニア」を連想させるような呼称・愛称を考えていく必要があると思うがいかがか。

質問者氏名 佐藤 ゆたか

目安時間 40分

1 通園・園外保育等の安全対策強化について

本年5月8日、滋賀県大津市で、園外保育に向かう途中、信号待ちをしていた保育園児が、交差点内の車同士の事故に巻き込まれ、2名死亡する事故が発生しました。未来を担う子どもたちを守るため、通園・園外保育時に園児・保育士等が被害に遭わないよう、安全対策を強化すべく、以下質問いたします。

- (1) 保育施設等の周辺の交通環境、また、園外保育における散歩ルートの安全確保のため、現場をよく知る保育士への聞き取り調査などをもとに、早急に点検の必要があると考えますが所見を伺います。
- (2) 警察等関係機関や保育園を初め、幼稚園、こども園及び保護者や地域等と連携を取り、危険箇所については安全対策に必要な措置（ガードパイプ等の設置や保育士による歩行時に小旗等をかざす注意喚起等）を早急に検討し、進めることが必要と考えますが所見を伺います。
- (3) 目黒区が主導し、各園における園外保育マニュアル等の点検・見直しを行い、より安全対策を強化することが必要と考えますが所見を伺います。
- (4) 今回の事故によって、保育園、幼稚園、こども園など各園での園外活動の対応が委縮し、園児の保育、教育が制約されることがないように、

幼児専用車（ヒーローバス）のさらなる利活用の拡充、安全な送迎手段を確保するための予算措置を講じる必要があると考えますが所見を伺います。

2 自転車利用に関する安全対策について

- (1) 今年1月から開始された自転車シェアリング事業の利用実態をどのように踏まえ、今後の事業の展望と課題について伺います。
- (2) 自転車保険加入の義務化が必要と考えますが所見を伺います。
- (3) 安全利用を目的とした自転車条例を制定する必要があると考えますが伺います。

質問者氏名 鴨志田 リ エ

目安時間 30分

1 「人生100年時代に生きる」について

厚生労働省の「世界平均寿命データ2017」では、3年連続で香港の男女が世界一長寿となった。日本男性はランクを一つ落とし3位、日本女性は昨年と同じく2位となった。「人とのつながり」が香港を1位に押し上げている。

- (1) 「老人クラブ」「老人いこいの家」は高齢者のつながりの場である。老人クラブの会員数は微増だが、65歳以上の高齢者の1割に満たない。「老人クラブ」の会員数増、「老人いこいの家」のさらなる活性化が人生100年時代、健康寿命の延伸、長寿のまち目黒区に必要と考えるが所見を問う。
- (2) 人生100年時代の60代70代は老年期の青春時代。セカンドライフで人とのつながり、地域とのつながりを持つ場は「老人クラブ」「老人いこいの家」だが、「老人」の名称で入り口を閉ざしていないか。「老人の名称を変えよう」の提案を平成17年定例会で質疑したが、時代が変化し人生100年時代を迎え、再度、「老人の名称を変えよう」を問う。
- (3) 社会から孤立化する中高年と高齢化する家族をめぐる問題が浮き彫りになった事件が相次いだ。相談体制の充実や相談につなげられる地域づくり、居場所づくりを進める必要があると考えるが所見を問う。

2 中高一貫校について

望ましい規模の区立中学の実現を目指し、七中、八中、九中、十一中の統合の検討を進めている。一中は地域性があり統合の検討外だが、6学級145人と区立中学校の中で生徒数は最も少ない。隣接の都立駒場高等学校の中高一貫校として開校を進めてはいかがか。

質問者氏名 芋 川 ゆうき

目 安 時 間 3 5 分

1 多子世帯の国民健康保険料の値下げについて

国民健康保険料において均等割減免を行えば、国保料は大幅に引き下がります。とりわけ、子どもの数が多いほど国保料は引き上がる均等割には、まるで人頭税、子育て支援に逆行しているという批判の声が上がっています。多子世帯の均等割負担は、支払い能力を無視して重過ぎるのです。子育て世帯への軽減策を区長会でも国に対して要請しています。

- (1) 区長は子どもの均等割が子育て世帯の暮らしを圧迫している現状について、どのような認識をしているのかを問います。
- (2) 3人目から免除する区独自の支援策に必要な財源は、250人分で1,200万円余です。目黒区として、まず第3子以降の子どもの均等割減免にしてはどうか、お答えください。

2 園芸土のリサイクルについて

使用済み園芸土を処分できない実態があります。現状は園芸ショップで土を買って使用済み園芸土を交換します。または民間にお金を払って処分するという方法があります。そこで、土を再生させるという観点から提案をさせていただきます。

- (1) 目黒区での園芸土の再生利用として、2010年（平成22年）「めぐろブラン土 花再彩（はなさいさい）」という取り組みを行っていましたが、再度循環させるこのイベントは、現状リサイクル率が高い目黒区の意識啓発の観点から見ても大いに意義を感じる取り組みです。再度行うべきだと思いますが、いかがでしょうか。
- (2) 区民、一個人ができる土の再生としては、生ごみを堆肥にし、再度土と合わせて土を再生させる家庭用生ごみリサイクルという方法があ

ります。また、生ごみリサイクルを行うことは、目黒区のごみの中で一番比率が多い生ごみを減らすことにもつながります。その観点から生ごみ処理機助成制度を創設することを提案しますが、いかがでしょうか。

3 高齢が原因での耳の聞こえについての補聴器助成について

難聴の放置が予防可能な認知症の最大危険因子と国際アルツハイマー病会議で発表されました。また、難聴ゆえに地域とのコミュニケーションもとれず孤立している状況も生まれています。高齢が原因の難聴では障害者手帳は発行されません。障害者手帳を持つ方への助成はありますが、障害者手帳がない場合でも助成が必要ではないでしょうか。

(1) 区として、この認知症の要因になっている事実と、地域社会の中での孤立状況と補聴器の関係をどのように認識していますでしょうか。

(2) 現在は23区の中で8区に助成制度があります。助成金額は2～3万円程度です。とりわけ江東区は、区指定耳鼻科にて検診を受け医師が判断をすれば、機種限定での現物支給が行われます。目黒区でも障害者手帳がない場合でも補聴器助成は必要と考え、健康を維持していくための助成金を検討すべきだと思いますがいかがでしょうか。

質問者氏名 青 木 英 太

目 安 時 間 4 5 分

1 地震に強いまちづくりへ区独自の対策を

いつ起こってもおかしくない東海地震などの震災への災害対策について、目黒区は防災無線や区の施設での独自の緊急地震速報を行うが、ホームページで掲載している目黒区地域危険度マップについては東京都が作成したものであり、区独自の災害対策が少ないように思える。震災への区独自の対策について伺う。

2 目黒区のシンボルである桜の保全について

(1) 桜の保全活動について、今後の樹木診断や植え替えなどの保全・整備事業の計画を伺う。

(2) 目黒の桜を後世に伝えていくため設立された「目黒のサクラ基金」の周知について、本区の取り組みを伺う。

3 子どもたちの自主性を育む主権者教育を

将来有権者になる子どもたちが自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者としての意識の醸成を目的とする主権者教育について、本区が現在区立学校で行っている取り組みについて伺う。